2015/01/24（第3種郵便物認可）　新聞定価 朝夕刊月ぎめ 本体価格3,095円(税込み3,343円) 1部売り(税込み) 朝刊110円夕刊50円　夕刊 東

西武新宿線 立体化賛成だが

都道整備 立ち退きノー

練馬区 あす協議会

東京都練馬区内の西武新宿線の立体化と都道整備をセットで実現を目指す区の方針に、住民から反発の声が出ている。街の分断や渋滞を解消する立体化を望む声は強い一方、都道整備では多くの住民が立ち退きを迫られるためだ。反対派は「切り離して議論すべきだ」としている。（杉戸祐子）



西武新宿線上石神井駅近くの踏切＝東京都練馬区で

住民「切り離して議論を」

区の担当課は「西武新宿線の立体化と道路整備を併せて行わないと、まちづくりが進まない」と説明。区は二十五日に「西武新宿線立体化促進協議会」を立ち上げ、事業主体の西武鉄道や都に早期実現を求める。

沿線町会や商店会、小中学校PTAなど約五十団体の会長らに賛同を呼び掛けており、協議会には約三十団体の会長らが参加する見通し。

区は、区内を東西に走る西武新宿線井荻―東伏見駅付近の立体化（地下化または高架化）と併せ、東大泉―世田谷区北烏山間の九キロを南北に走る都道「外環の2」などの整備を目指している。

区によると、西武新宿線は区内に十三カ所の踏切がある。交通渋滞や踏切事故の危険があるほか、地域を分断しており、立体化を求める住民は多い。一方、都道の建設計画地にかかる元関町一丁目町会は二十一日、「立体化計画は喜ぶべきことだが、都道の整備促進を前提にすることには反対」とした申し入れ書を区に提出した。

西武新宿線沿線の下石神井の町会「あやめ会」会長の松浦康夫さん(六七)も「都道の必要性や妥当性の判断は分かれている。多くの住民が望んでいる立体化とセットで考えるべきではない」と批判する。

協議会の結成大会は二十五日午後二時から、区立上石神井小学校で。

開始前には会場前で、都道に反対する区民らでつくる「とめよう『外環の2』ねりまの会」の村山敦子事務局長(六〇)らが、ビラ配布などのアピール行動をする。

外環の2　1966年に高架での建設を想定した高速道「東京外かく環状道路（外環道）」の下を通る一般道路として計画された。2007年に外環道の練馬―世田谷間を地下に建設するよう東京都の都市計画が変更されたが、外環の2を地上に造る計画は残った。

